

——令和7年12月24日(水) No.23——校長 東原 宏章——

「美しいもの」

～ 終業式 校長講話より ～

2学期の最後の日ということで、私がこの2学期に見た「美しいもの」、それら2つについて話します。

一つ目は、12月のある日の昼休みに、運動場で見た「美しいもの」です。

鉄棒のあたりに10人を超える人たちが集まって、小さな人ばかりができていないに気が付きました。どうやら、一人の女の子を囲んでいるようだったので、気になって近づいてみました。

近づいてみると女の子は静かに泣いていました。泣いていましたが、女の子に寄り添っている先生や子供たちの言葉から、その女の子の涙が嬉し涙だということが、すぐに分かりました。

「できたねえ。よかったねえ。もう大丈夫。次もできるよ。」

そう言いながら、先生や子供たちは、左手で鉄棒を握りしめている女の子に、次々と言葉や拍手を送っていました。

私は、その女の子が3週間くらい前から逆上がりの練習を続けていたのを知っていたので、努力し続けたことが報われた、その喜びが溢れた涙だと分かりました。美しい涙でした。

私たち教師には、教師になってよかったなと実感する出来事が時々あるのですが、この日がそうでした。頑張り続けて成功した喜びの涙は大変美しいものでした。

後から聞いたのですが、女の子と同じクラスの子供だけでなく、他のクラスの子供たちも、女の子に対して逆上がりができる「コツ」や、励ましの言葉をかけ続けていたということでした。不思議なことですが、一生懸命頑張り続ける人の周りには、優しい心、あったかい心が集まります。これらの優しい心、あったかい心も美しいものだと思わずにはいられませんでした。

美しいものの2つ目は、この2学期にトイレで見続けることができました。

私は、ほぼ毎日、皆さんが下校した後に校舎内のトイレのスリッパが並んでいるか見て回っているのですが、ほとんどのトイレで、この2学期、毎日のようにスリッパが並んでいました。素晴らしいことです。3学期も続けてほしいと思うことです。

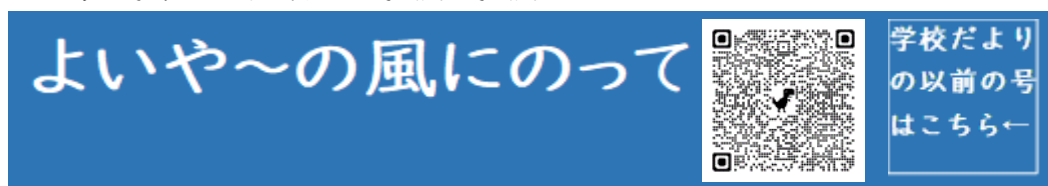
2学期の11月のある日の中休みに、2階の体育館側のトイレの前を通っていたら、ある男の子がトイレのスリッパを並べているところに出くわしました。男の子は私には気がついていないようで、スリッパ並べを続けました。男の子は自分のスリッパを並べ終わると、そばにあった少し斜めを向いたスリッパも並べました。男の子のその姿を見ながら、私はハッとさせられました。このように自分が使った以外のスリッパを並べてくれる人がいて、その行いを続けてくれているので、この学校のトイレのスリッパはいつでもどこでも美しく並んでいるのだなと気づくことができたのです。短い言葉で申し訳なかったのですが、男の子の美しい行いに感謝の気持ちを込めて「ありがとう。」と声をかけました。

さて、トイレの「美しいもの」にはおまけがあります。それは、トイレトペーパーが途切れることがないということです。いつでもどこのトイレにも予備のトイレトペーパーが備えてあります。保健委員会の人たちがやり続けていることです。皆がトイレを使うときに困らないようにという責任感の現れです。保健委員会の人たちのこの美しい行いに対して、直接お礼の言葉を伝えるチャンスがなかったので、この場でお礼の言葉を伝えます。「ありがとう。」

さて、私たちの行いや営みが「美しいもの」になるには、ある共通点があるように思います。それは、「やり続けること」と関係がありそうです。私たちは、一生懸命努力した人や強い意志で責任感を持って役割を果たしてくれた人に「頑張ったね。」と労いの言葉をかけたり、「ありがとう」と感謝の言葉をかけたりします。

「美しいもの」には優しい心やあったかい心が引き寄せられます。そして、また、それらの優しい心やあったかい心が「美しいもの」となっていくようにも思うのです。「美しいもの」が集まって、重なって、学級や学校はできているのかも知れません。

2学期の終わりというこの節目のときに、クラスの仲間や先生と一緒に、それぞれの学級の、そして、あなたの「美しいもの」を振り返ってみてはいかがでしょうか。



「2がっきにがんばったこと」
～ 終業式 児童代表の言葉 ～



「2がっきにがんばったこと」

わたしが二がっきにがんばったことは、3つあります。

1 つめは、かんじです。1年生のときよりむずかしくなったので、れんしゅうをがんばりました。

2つめは、さんすうの九九です。とくに7のだと8のだんはにがてだったので、くりかえしれんしゅうをがんばりました。

3つめは、たいいくのなわとびです。にじゅうとびが10かいはできるようにがんばっています。

冬休みは、クリスマスが楽しみです。サンタさん、たくさんがんばったので、すてきなプレゼントをくださいね。

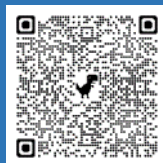
2 年 1 組 ○○ ○○



漢字に九九、そして、縄跳び。3つとも粘り強さが求められるものばかりです。よく頑張りましたね。素敵です。2年生の他の児童も皆、継続して取り組んでいました。12月には、できるようになったことが増えて満足げな子どもたちを見ることができました。

ところで、サンタさんからのプレゼントはどうだったかな？

よいや～の風について



学校だより
の以前の号
はこちら→



——令和8年1月9日（金）No.25——校長 東原 宏章——

「さいごまで いっしょうけんめい やりきる3がっき」

～ 3 学期 始業式 校長講話 ～

3学期は、およそ50日間という短い学期です。しかし、短いからこそ、一日一日の重みが違います。

各教室の黒板には、「まとめの学期」「来年に向けての『準備の学期』」「来年の1学期につながる『ゼロ学期』」といった言葉とともに、「どんどんチャレンジ」「失敗 OK」「やり続ける」「考えぬく」「最後まで」「なかよく」「なかまとともに」「なかまのために」「楽しくするために」「あなただけの目標を」などのメッセージが書かれていました。

そこには、限られた時間を大切にしながら、一人一人が次につながる力を伸ばしてほしいという、担任の先生の強い思いが込められていました。

18の学級の黒板に書かれていた素敵な言葉を、校長先生なりに整理して、3つの合言葉にしてみました。

一つ目は「チーム」。

「なかよく」「なかまとともに」という言葉です。

何事も一人では成し遂げることはできません。

仲間の支えがあってこそです。

二つ目は「チャレンジ」。

「どんどんチャレンジ」「失敗 OK」「やり続ける」「考えぬく」「最後まで」です。

三つ目は「ルール」。

「楽しくするために」「なかまのために」という言葉です。ルールはみんなが楽しく暮らすためにあるものです。あなたは、仲間のためにルールを守るのです。

3学期は、およそ50日間という短い学期です。しかし、一人一人が次の学年につながる力を伸ばす、とても大切な準備の学期でもあります。

そこで、校長先生から皆さんに一つお願いがあります。

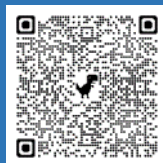
皆さんは、今日か明日のうちに3学期の目標を決めると
思います。決めたら、そのうちから一つだけでいいので、そ
の目標を言葉にして書いて、ぜひ、校長先生に見せてくだ
さい。

校長先生は、1年生から6年生まで、皆さん一人一人の
目標を、

「チーム」「チャレンジ」「ルール」

この3つの合言葉と結び付けながら、読ませてもらいます。
よろしくお願いします。

よいや～の風について



学校だより
の以前の号
はこちら←



——令和8年1月13日(火) No.26——校長 東原 宏章——

～ 3 学期 始業式 児童代表のことば ～

(今回は4年生2名です)



「三学期がんばりたいこと」

四年一組 ○○ ○○

みなさん、あけましておめでとうございます。今日からいよいよ三学期が始まります。冬休みを楽しく過ごし、今日こうしてみなさんに会えるのを楽しみにしていました。

ふり返ってみると、二学期は小音会、社会科見学などの大きな行事がありました。ぼくはその中で、クラスのみんなと協力して頑張ることを学びました。しかし、一方で進んであいさつをすることについては、まだ十分にできなかったと反省しています。

そこで、ぼくはこの三学期、特に二つのことをがんばり

たいと思います。一つ目は、「あいさつ」です。二学期にあまりできなかった自分から進んであいさつをがんばりたいです。

二つ目は、「高学年になる準備」です。あと三ヶ月で、ぼくたち四年生は、高学年の仲間入りをします。四年生にとって、三学期は「五年生の0学期」とも言われます。これまでは六年生や五年生にたよってばかりでしたが、これからは下級生のお手本になれるよう、周りを見て行動できるようになりたいです。

三学期は、今の学級や学年で過ごせる最後の時間です。一人では大変なことも、この高城台小学校の仲間とならぬりこえられると思います。おたがいのいいところをたくさん見つけて、三月が終わる時、みんなで『この一年間、がんばってよかったね』と笑い合えるように、三学期もがんばりましょう。みなさんの三学期が、笑顔いっぱいの毎日になることを願っています。これで、ぼくの三学期にがんばりたいことについての発表を終わります。



「最高の三学期にするために」

四年二組 ○○ ○○

二学期は、社会科見学や小音会という大きな行事がありました。みんなで協力しながら、いろいろな部分で成長することができたと思います。

いよいよ三学期が始まります。四年生のゴールが近づいてきました。この一年が最高だったと言えるように、わたしは三学期に二つのことをがんばります。

一つ目は、「分からないことがあっても、あきらめずに努力する」ということです。わたしは、算数で習ったわり算の筆算が苦手でした。友達や浜田先生に教えてもらったり、たくさんの練習問題をといたりして、一人でできるようになりました。わたしは、あきらめずに努力すればできると知りました。三学期も新しいことにチャレンジする時に生かしていきたいです。

二つ目は、「学級がもり上がり、楽しくなることをする」ということです。寒くなってきた、室内遊びをすることがふえ

ているので、晴れている日は、みんなをさそって、外で遊びたいです。そして、一人でいる友達を見つけたら、声をかけたいです。三学期も、もっともっと友達とのなかを深めていきたいと思います。

このように、わたしは三学期に二つのことをがんばりながら、四年生の最高のゴールを目指したいです。そして、四月からは高学年の五年生になります。高学年としてどんなことをがんばろうかと、今からとても楽しみです。



「挨拶を頑張る。」

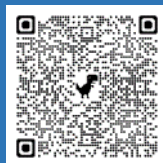
「5年生の準備の学期を仲間と一緒に乗り越え、笑顔で終わりたい。」

「分からないことがあっても、あきらめずに努力する。」

「学級がもり上がり、楽しくなることをする。」

これらは、4年生皆の思いに通じることです。立派な決意表明でした。400人を超える全校児童の前で堂々と発表することもできていました。

よいや～の風について



学校だより
の以前の号
はこちら→



——令和8年1月23日（金）No.27——校長 東原 宏章——
～「第3学期集団下校」～

1月22日（木）の午後に全校一斉集団下校を行いました。集団下校の目的は以下のとおりです。

- 児童一人一人が地区の一員であるという自覚をもち、協力して安全を確保しようとする意識を高める。
- 地震・台風、不審者など、緊急時の下校に備え、児童の安全確保を図る。
- 地域の皆さんとともにパトロールを行うことで、青少年が巻き込まれる事件の抑制を図り、通学路の危険箇所等の確認を行う。



下校を前に子どもたちは、各地区ごとに指定された教室に集まりました。各教室では、高城台校区コミュニティ連絡協議会の皆さんが作成してくださった自治会ごとの「危険箇所確認地図」を用いて、通学路のどんなところに危険が潜んでいるかを確認しました。

その後に、子どもたちは各地区に分かれ、担当教師が引率し、集団で下校しました。

本校の集団下校は、「高城台校区コミュニティ連絡協議会」の「子どもを守るネットワーク事業」の一環としても行われています。

高城台校区コミュニティ連絡協議会の皆様や民生委員の皆様も、子供たちの集団下校に同行してくだり、危険箇所の確認をしてくださいました。寒い中、子供たちを見守ってください、誠にありがとうございました。

